

令和4年度 第1回神戸市就学・教育支援委員会 次第

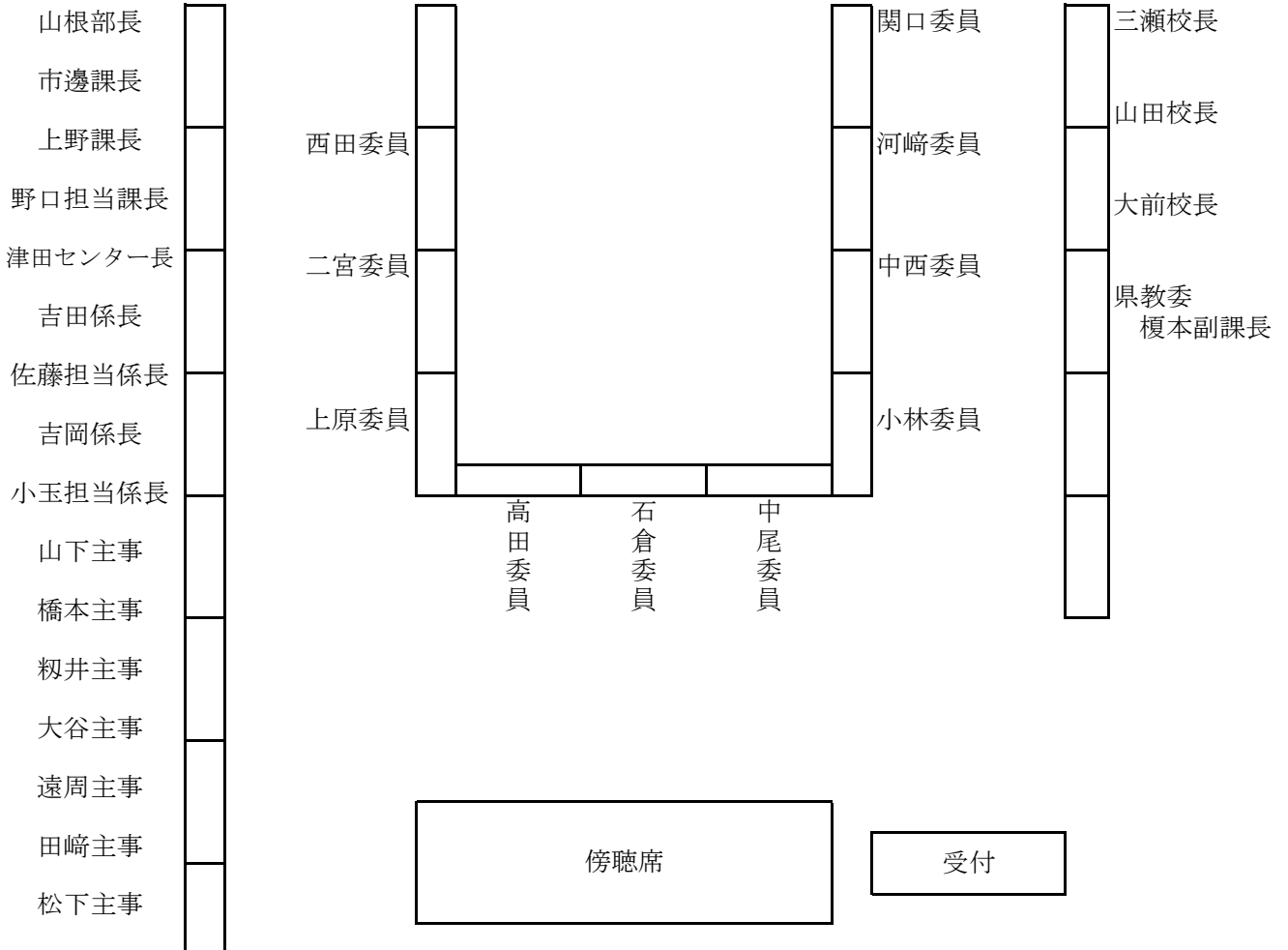
令和4年6月9日(木) 15:00～
神戸市総合教育センター601号室

1. 開会
 2. 委員・相談員の委嘱
令和4年度 委員等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 3. 内容
 - (1) 特別支援教育に関するあり方について
 - ①令和3年度 活動状況報告について・・・・・・・・・・ 2
 - ・令和3年度 活動状況
 - ・令和3年度 就学支援の状況
 - ②令和4年度 活動計画について・・・・・・・・・・ 3
 - ③児童生徒の状況について
 - ・特別支援学級設置状況と児童生徒数・・・・・・・・ 4
 - ・特別支援学校児童生徒数の推移・・・・・・・・ 5
 - ・通級指導幼児児童生徒数・・・・・・・・ 6
 - ④特別支援教育のあり方 ～現状と課題、今後の方向性について～(資料1)
 - (2) 就学相談について
 - (3) 校内支援委員会「判断報告書」の検討
 - (4) その他
 4. 事務連絡
- (参考資料)
- ・神戸市就学・教育支援委員会開催要綱・・・・・・・・ 7

令和4年度 第1回神戸市就学・教育支援委員会 座席表

KEC601号室

スクリーン



令和4年度 神戸市就学・教育支援委員会 委員等一覧

	名前	所属等	専門等
委員	石倉 健二	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科教授	発達心理
	中尾 繁樹	関西国際大学 教育学部学部長	教育心理
	小林 大介	兵庫県立こども病院 整形外科部長	整形外科
	上原 奈津美	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科助教	耳鼻咽喉科
	高田 哲	こども家庭局 総合療育センター 診療担当部長	小児科
	中西 裕子	神戸大学医学部附属病院 眼科准教授	眼科
	河崎 洋子	にこにこハウス医療福祉センター施設長	小児神経科
	関口 典子	兵庫県立こども病院 精神神経科部長	児童精神科
	西田 和子	元神戸総合医療専門学校 学科長	言語聴覚士
	二宮 啓子	神戸市看護大学教授 学生部長	小児看護学
オブザーバー	大前 稔	魚崎中学校長(中学校教育実践研修特別支援教育グループ)	
	山田 義明	高羽小学校長(小学校教育実践研修特別支援教育グループ)	
	三瀬 博道	いぶき明生支援学校長(特別支援学校校長会)	
	榎本 好子	兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課 副課長	
事務局	山根 拓生	教育委員会事務局 学校教育部長	
	市邊 裕喜	教育委員会事務局 学校経営支援課長	
	上野 昌稔	教育委員会事務局 特別支援教育課長	
	野口 千晶	教育委員会事務局 特別支援教育課 担当課長	
	津田 朋厚	教育委員会事務局 特別支援教育課 担当課長 特別支援教育相談センター長	
	吉田 泰宏	教育委員会事務局 特別支援教育課 推進係長	
	小玉 誠	教育委員会事務局 特別支援教育課 担当係長	
	吉岡 邦夫	教育委員会事務局 特別支援教育課 管理係長	
	佐藤 亘	教育委員会事務局 特別支援教育課 担当係長	中央区担当
	大谷 芳樹	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	知的障害、東灘区・灘区担当
	山下 政子	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	LD・ADHD、兵庫区担当
	橋本 繁仁	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	視覚障害、北区担当
	榎井 雄太	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	自閉症・情緒障害、須磨区担当
	田崎 裕介	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	肢体不自由、長田区担当、小・中医療的ケア
	遠周 幸代	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	言語・聴覚障害、垂水区担当
松下 岳人	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	病弱・身体虚弱、西区担当	

令和3年度 神戸市就学支援委員会 活動状況

月	事 項
4	・校内就学支援委員会構成員の調査 (幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校)
6	・就学支援のあり方について(校園長研修・教頭研修)資料配布のみ ・第1回神戸市就学支援委員会(6/10)
10	・「令和3年度特別支援学級、学級編制協議資料」についての校長説明 (校園長研修・教頭研修)
12	・第2回神戸市就学支援委員会(12/23)
2	・第3回神戸市就学支援委員会(2/17)
3	・校内就学支援委員会 活動状況調査(小学校、中学校)

令和3年度 就学支援の状況

<小・中学校 校内就学支援委員会 検討件数>

	小学校	中学校	合計
校内就学支援委員会 (数)	163	82	245
開催回数	1,109	302	1,411
検討件数	3,370	1,081	4,451

<就学猶予・免除に関する検討>

年齢 6歳～11歳 0名

年齢 12歳～14歳 0名

令和4年度 神戸市就学・教育支援委員会 活動計画

月	事 項
5・6	・就学相談について（校園長研修・教頭研修）
6	・第1回神戸市就学・教育支援委員会(6月中旬)
9	・第2回神戸市就学・教育支援委員会（9月下旬）
10	・「令和5年度特別支援学級、学級編制協議資料」についての校長説明 （校園長研修・教頭研修）
12	・第3回神戸市就学・教育支援委員会(12月中旬)
2	・第4回神戸市就学・教育支援委員会(2月中旬)
3	・校内支援委員会 活動状況調査（小学校、中学校）

令和4年度 特別支援学級設置状況と児童生徒数

(1) 特別支援学級 令和3年度と令和4年度との対比

学級種別	年度	小学校		中学校		計	
		学級数	在籍数	学級数	在籍数	学級数	在籍数
知的障害	R3	186	837	81	296	267	1133
	R4	193	878	83	303	275	1181
病弱・虚弱	R3	7	7	2	2	9	9
	R4	8	8	3	5	9	13
難聴	R3	1	6	1	8	2	14
	R4	1	7	1	6	2	13
自閉症 情緒障害	R3	179	782	78	232	257	1014
	R4	192	843	81	251	274	1099
肢体不自由	R3	58	73	19	22	77	95
	R4	55	74	12	14	67	89
合計	R3	431	1,705	181	560	612	2,265
	R4	449	1,810	180	579	629	2,389

(2) 特別支援学級の児童生徒数及び学級数の年度別推移

年度	小学校		中学校		計		1クラス当たりの 平均在籍者数
	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	
13	219	564	92	249	311	813	2.61
14	227	585	98	255	325	840	2.58
15	231	616	106	284	337	900	2.67
16	244	640	99	273	343	913	2.66
17	243	659	106	288	349	947	2.71
18	248	678	105	286	353	964	2.73
19	253	712	108	300	361	1012	2.80
20	262	771	109	334	371	1105	2.98
21	271	817	105	328	376	1,145	3.05
22	279	883	107	317	386	1,200	3.11
23	293	925	110	338	403	1,263	3.13
24	317	1006	112	335	429	1,341	3.13
25	323	1037	118	383	441	1,420	3.22
26	330	1,076	136	420	466	1,496	3.21
27	349	1,168	142	460	491	1,628	3.32
28	366	1,268	148	455	514	1,723	3.35
29	384	1,391	147	461	531	1,852	3.49
30	400	1,470	153	479	553	1,949	3.52
R元	400	1,536	164	517	564	2,053	3.64
R2	420	1,622	178	555	598	2,177	3.64
R3	431	1,705	181	560	612	2,265	3.70
R4	449	1,810	180	579	629	2,389	3.80

特別支援学校の幼児・児童生徒数の推移

(単位:人) (令和4年5月1日現在)

年度		25	26	27	28		29	30	R元	R2		R3	R4		
盲	幼	1	1	3	2		2	1	2	2		1	0		
	小	5	5	5	4		3	6	5	4		5	6		
	中	8	7	6	5		6	6	5	5		3	2		
	高本科	11	14	12	10		7	6	5	7		7	8		
	高専科	15	12	11	15		20	21	15	8		6	6		
	計	40	39	37	36		38	40	32	26		22	22		
友生	(本校体)	幼	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	
		小	27	24	34	36		41	43	41	46		23	21	
		中	18	25	24	21		16	21	20	21		11	9	
		高	13	18	19	26		30	31	27	20		14	13	
		小計	58	67	77	83		87	95	88	87		48	43	
	(分校区)	小	7	6	5	1		—	—	—	—		灘 さくら 統 合		
		中	2	1	2	5		6	5	1	—				
		高	5	5	3	1		1	2	5	6				
		小計	14	12	10	7		7	7	6	6				
	知的	小	5	14	19	23		31	35	39	40		36	47	
		中	18	27	37	44		55	44	36	44		54	54	
		高	16	34	54	65		71	82	88	85		73	68	
		小計	39	75	110	132		157	161	163	169		163	169	
	訪問含 病弱	小	8	10	21	11		17	14	19	18		14	13	
		中	6	5	5	6		3	6	8	6		13	9	
高		0	2	2	1		0	1	1	0		0	0		
	小計	14	17	28	18		20	21	28	24		27	22		
	計	125	171	225	240		271	284	285	286		238	234		
垂水 (肢体不自由)	本校	幼	1	0	0	0	い ぶ き 明 生	幼	0	0	0	0		0	0
		小	42	40	34	22		小	20	22	24	28		25	24
		中	28	32	32	34		中	30	23	17	18		24	23
		高	24	21	25	27		高	34	34	42	41		32	21
		小計	95	93	91	83		小計	84	79	83	87		81	68
	訪問	小	7	4	4	3		小	4	4	3	5		4	2
		中	6	7	5	6		中	5	6	4	4		2	3
		高	5	5	4	5		高	7	7	10	10		10	5
		小計	18	16	13	14		小計	16	17	17	19		16	10
		計	113	109	104	97									
青陽西 (知的障害)	小	28	26	26	31	知的	小	35	45	54	63		70	78	
	中	47	45	49	48		中	52	66	69	75		77	84	
	高	56	67	69	80		高	89	109	117	114		114	123	
	小計	131	138	144	159		小計	176	220	240	252		261	285	
	計	276	316	340	358							358	363		
青陽東 (知的障害)	小	33	35	32	28	青陽灘高等	小	15	13	18	18		18	14	
	中	57	54	60	58		中	11	13	14	9		5	7	
	高	96	125	129	131		高	12	9	6	8		11	12	
	小計	186	214	221	217		小計	38	35	38	35		34	33	
		計	194	179	194		195	計	274	260	241	259		265	272
青陽須磨	小	56	57	50	54	計	小	58	60	57	64		66	77	
	中	58	65	76	83		中	80	63	57	67		82	85	
	高	137	138	134	135		高	136	137	127	128		117	110	
	小計	251	260	260	272		小計	274	260	241	259		265	272	
		計	274	288	290		306		312	295	279	294		299	305
全体計		869	959	1021	1055		1091	1114	1130	1159		1158	1182		

通級指導 幼児児童生徒数

R4.5.1現在

拠点校通級教室

	教室名	幼	小	中
そだちとこころの教室	本山南	5	51	
	神戸生田	19	35	27
	小 部	5	33	15
	竜が台	11	32	24
	垂 水	11	29	
	竹の台	8	29	26
	合 計	59	209	92
きこえとことばの教室	稗 田	18	67	
	湊川多聞	29	42	22
	谷 上	21	30	15
	道 場	16	20	
	板 宿	9	27	
	西落合	18	50	
	西 脇	36	53	
	枝 吉	19	30	
合 計	166	319	37	
拠点	幼・小・中 合計	225	528	129

自校通級教室（小学校）

	学校名	児童数
1	福池	17
2	魚崎	19
3	渦が森	11
4	御影北	13
5	成徳	16
6	高羽	9
7	上筒井	15
8	湊	16
9	港島学園前期	15
10	夢野の丘	13
11	兵庫大開	13
12	藤原台	12
13	ひよどり台	17
14	長尾	22
15	鹿の子台	13
16	蓮池	17
17	駒ヶ林	13
18	北須磨	16
19	下畑台	13
20	千鳥が丘	7
21	霞ヶ丘	19
22	井吹東	19
23	伊川谷	15
24	高津橋	16
	合計	356

	幼	小	中
合計	225	884	143
総合計	1252		

自校通級教室（中学校）

	学校名	生徒数
1	鈴蘭台	14

特別支援教育のあり方

～現状と課題、今後の方向性について～

令和4年6月9日
教育委員会事務局



1. 障害のある子供の学ぶ場について

特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱 聴覚障害 肢体不自由

	H23	R3	比率
神戸市	804人	1,158人	1.4倍



小学校・中学校

・特別支援学級

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱 聴覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害

	H23	R3	比率
神戸市	1,263人	2,265人	1.8倍



・通常の学級

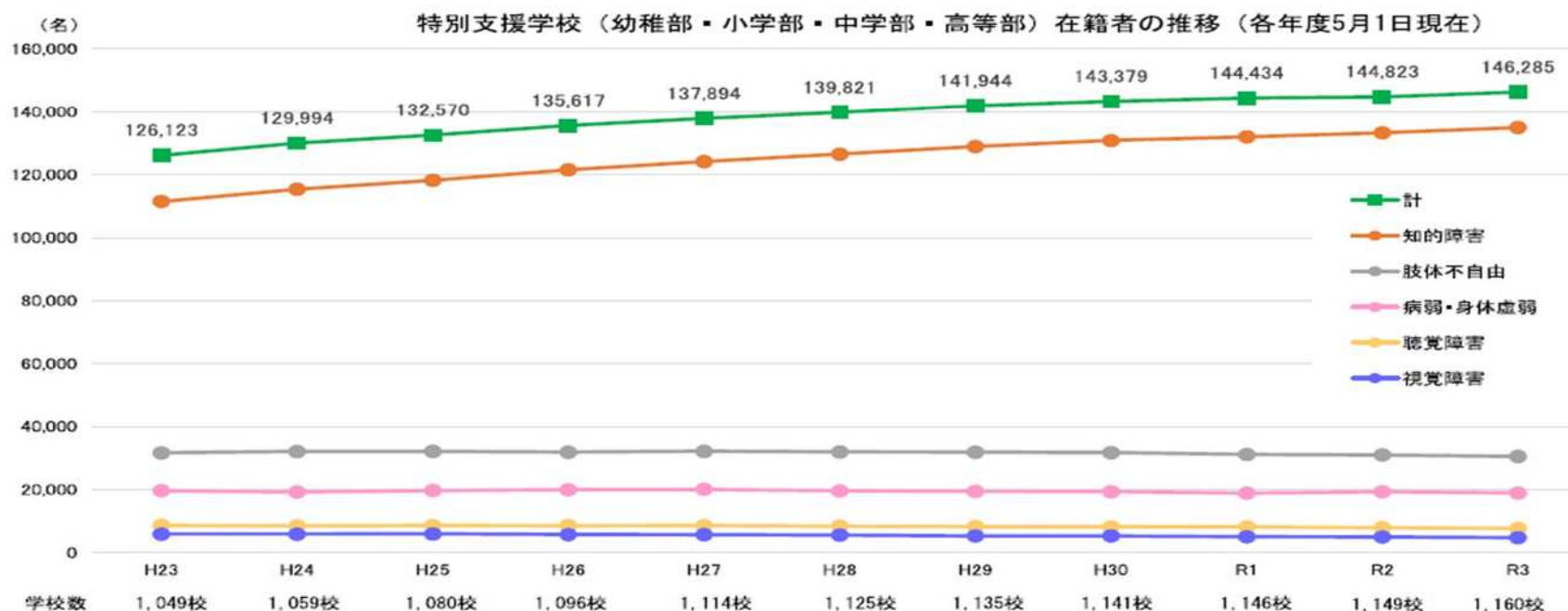
通級による指導

視覚障害 聴覚障害 肢体不自由 病弱・身体虚弱 言語障害 自閉症・情緒障害
学習障害（LD） 注意欠陥多動性障害（ADHD）

	H26	R3	比率
神戸市	435人	839人	1.9倍



特別支援学校の幼児児童生徒数・学校数の推移



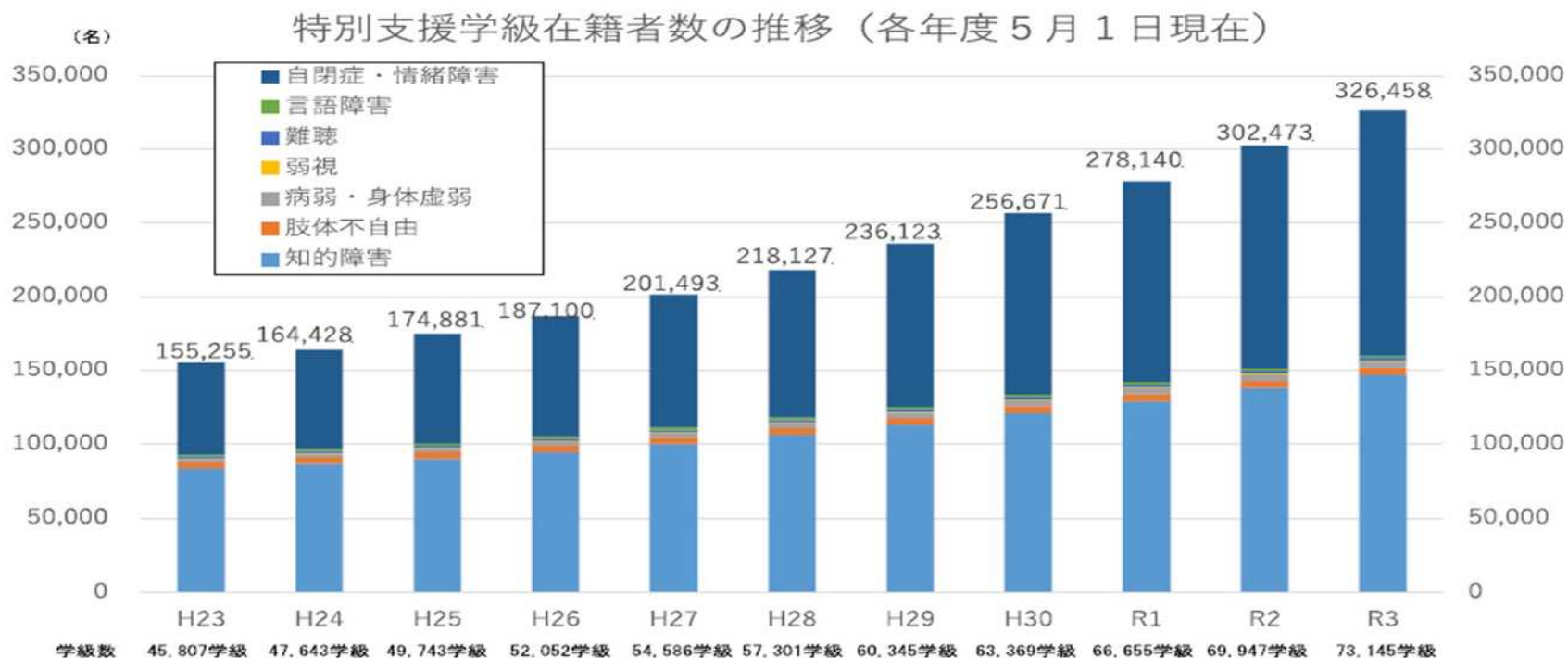
【令和3年度の状況】

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学校数	84	119	801	354	154	1,512
在籍者数	4,775	7,651	134,962	30,456	18,896	196,281
学級数	2,054	2,759	32,095	12,114	7,518	56,540

(出典)学校基本調査

※平成19年度より、複数の障害種に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害に対応する学校及び複数の障害を有する者については、それぞれの障害種に集計している。このため、学校数及び在籍者数のグラフと表の数値は一致しない。

特別支援学級の児童生徒数・学級数



【令和3年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	31,227	3,191	2,883	544	1,341	692	33,267	73,145
在籍者数	146,948	4,653	4,618	631	1,931	1,355	166,322	326,458

（出典）学校基本調査



通級による指導を受けている児童生徒数の推移

通級による指導を受けている児童生徒数の推移(各年度5月1日現在)



(出典)通級による指導実施状況調査(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調べ)

※平成30年度から、国立・私立学校を含めて調査。

※高等学校における通級による指導は平成30年度開始であることから、高等学校については平成30年度から計上。

市立特別支援学校における在籍児童生徒数の推移

- 市立特別支援学校の在籍児童生徒数は増加の一途を辿ってきたが、近年は、ほぼ横ばい傾向。
- インクルーシブ教育の浸透が進み、地域の小中学校へ児童生徒が流れている傾向にある。



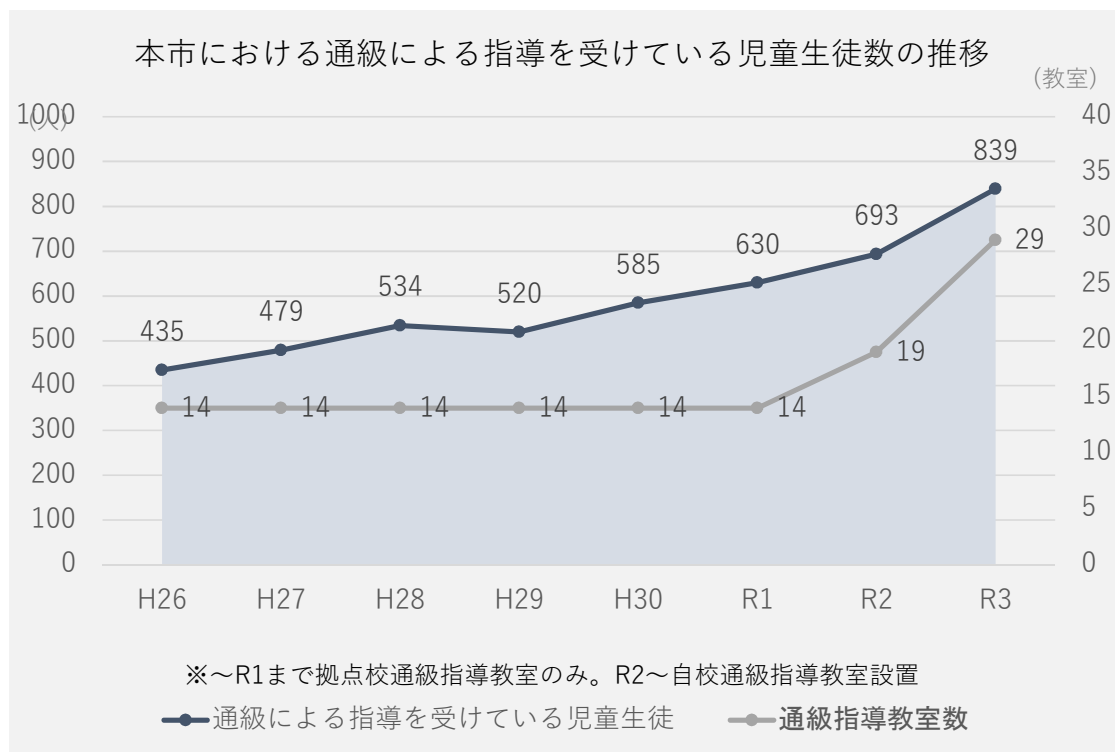
市立小中学校（特別支援学級）における在籍児童生徒数の推移

- 特別支援学級に在籍する児童生徒は増加傾向にある（10年で約1.8倍）



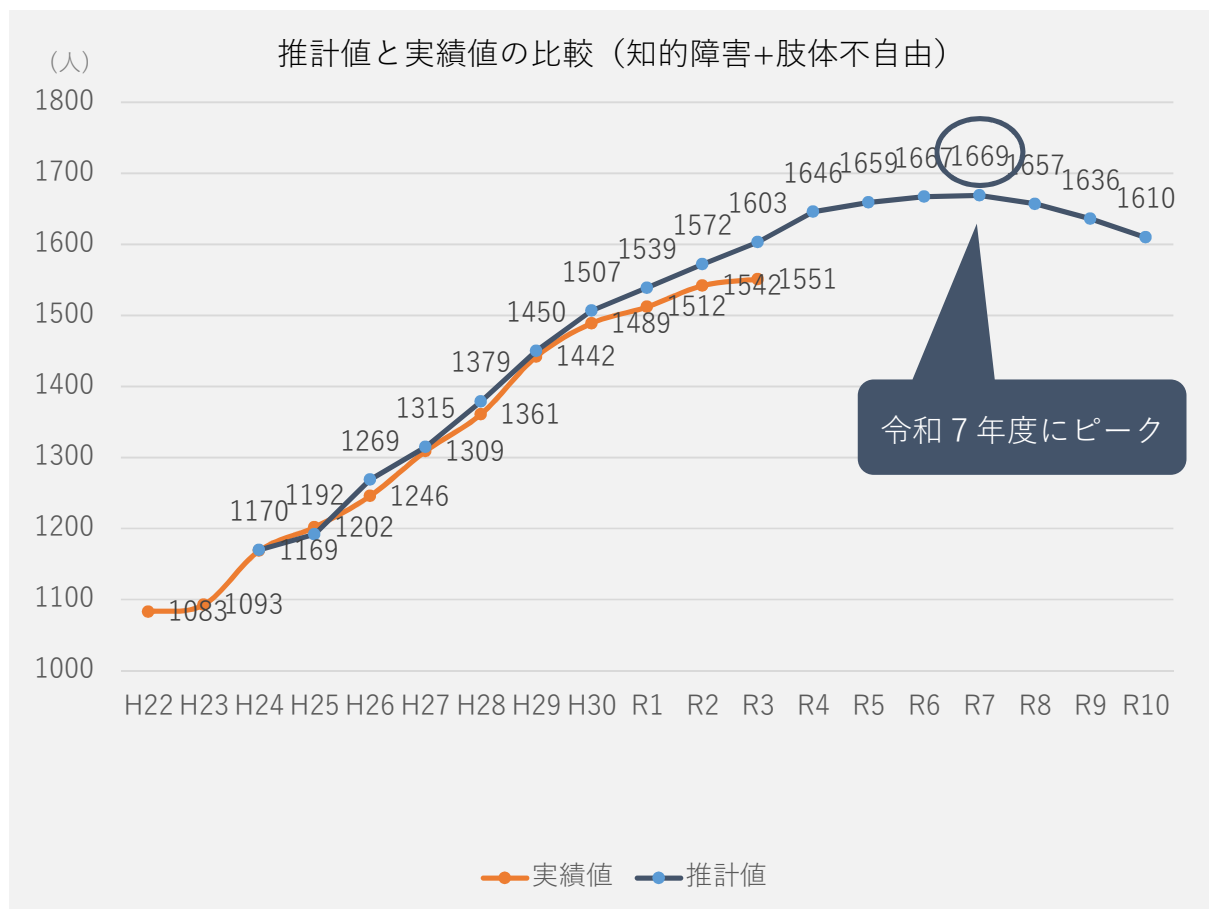
本市における小中学校（通級による指導）の現状について

- 通級による指導を受けている児童生徒数は増加傾向にある。
- 本市においては、拠点校通級指導教室14教室に加え、令和2年度より自校通級指導教室の整備を進めている。
(令和8年度までに約100校 整備予定)



特別支援学校の児童生徒数の将来推計について

- 将来推計によると、特別支援学校の児童生徒数（市内在住）は、令和7年度にピークを迎える。



本市における特別支援学校整備状況



青陽須磨支援学校
(神戸市須磨区)
平成21年4月開校
知的障害/肢体不自由

友生支援学校
(神戸市兵庫区)
平成25年4月開校
知的障害/肢体不自由



1 2

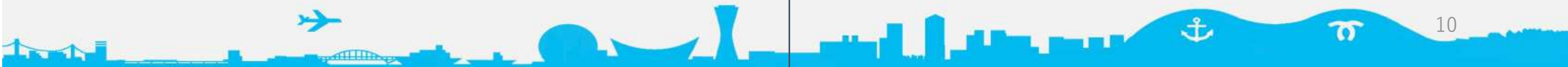


いぶき明生支援学校
(神戸市西区)
平成29年4月開校
知的障害/肢体不自由

灘さくら支援学校
(神戸市灘区)
令和3年4月開校
知的障害/肢体不自由



3 4



神戸市内の児童生徒が通学する特別支援学校

県立のじぎく特別支援学校(S33)
 西区(神出・押部谷・桜が丘中学校区)
 (知/小・中・高) (肢/幼・小・中・高)

いぶき明生支援学校(H29)
 垂水区(歌敷山・星陵台・多聞東・本多聞・神陵台中学校区)
 西区(神出・押部谷・桜が丘中学校区を除く)
 (知/小・中・高) (肢/幼・小・中・高)

県立神戸特別支援学校(S53)
 北区(知・肢/小・中・高)

青陽灘高等支援学校(R3)
 東灘区(本庄・魚崎・本山南中学校区を除く)・灘区・中央区
 (知/高)

友生支援学校(H25)
 (知) 兵庫区・長田区
 (肢) 兵庫区・長田区
 (知/小・中・高) (肢/幼・小・中・高)

県立芦屋特別支援学校(H22) (芦屋市)
 東灘区(本庄・魚崎・本山南中学校区)
 (知/小・中・高)

青陽須磨支援学校(H21)
 須磨区・垂水区(桃山台・塩屋・垂水東・福田・垂水中学校区)
 (知・肢/小・中・高)

灘さくら支援学校(R3)
 (知) 東灘区(本庄・魚崎・本山南中学校区を除く)・灘区・中央区
 (肢) 東灘区・灘区・中央区
 (知/小・中) (肢/小・中・高)

県立神戸聴覚特別支援学校(S6)
 県内全域(聴/保・幼・小・中・高)

盲学校(S14)
 市内全域(視/幼・小・中・高(本科・専攻科))

県立視覚特別支援学校(M38)
 県内全域(視/幼・小・中・高(本科・専攻科))



2. 障害種別から捉えた課題

- 知的障害、肢体不自由については令和3年度までの学校再整備をもって一定の整理ができた。
- しかし、「視覚障害」「聴覚障害」「訪問学級（病弱・肢体不自由）」については課題解決がなされていない。
 - ① 視覚障害 市立盲学校の幼児・児童生徒数の減少への対応
 - ② 聴覚障害 「人工内耳」の子供が増加するなかで拠点校聴覚特別支援学級を含めたあり方の検討
 - ③ 訪問学級 病弱訪問教育部（友生支援学校）、在宅肢体不自由訪問教育部（いぶき明生支援学校）のあり方についての検討



令和4年度の予定

- 第1回（6月9日） 課題の整理と視覚障害に関する意見聴取
- 第2回（9月下旬） 聴覚障害に関する意見聴取
- 第3回（12月中旬） 訪問学級に関する意見聴取・これまでの意見整理
- 第4回（2月中旬） 今年度の課題 意見集約とまとめ
次年度の課題についての提案



3. 視覚障害について

市立盲学校

(対象) 神戸市に在住する幼児児童生徒

(設置学部) 幼稚部・小学部・中学部・高等部

令和4年度市立盲学校児童生徒数内訳 (○は学年)

幼	小学部						中学部			高等部												合計
										本科						専攻科						
										普通科			保健医療科			保健医療科			療養科			
	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
0名	1	1	0	1	2	1	1	0	1	3	1	3	1	0	0	1	0	2	1	0	2	
	6名						2名			7名			1名			3名			3名			22名

・幼稚部・小学部・中学部・高等部普通科では、普通校に準ずる教育に加え、点字の勉強や日常生活指導など視覚障害の困難を改善・克服するための「自立活動」を実施。

・高等部専攻科では、高校卒業資格を有する生徒に対し、「あんまマッサージ指圧師」等の資格取得を目指す専門教育を実施。



市立盲学校 (S14開校、S63現校舎完成)

(神戸市中央区東川崎町)

市内全域 (視/幼・小・中・高(本科・専攻科))

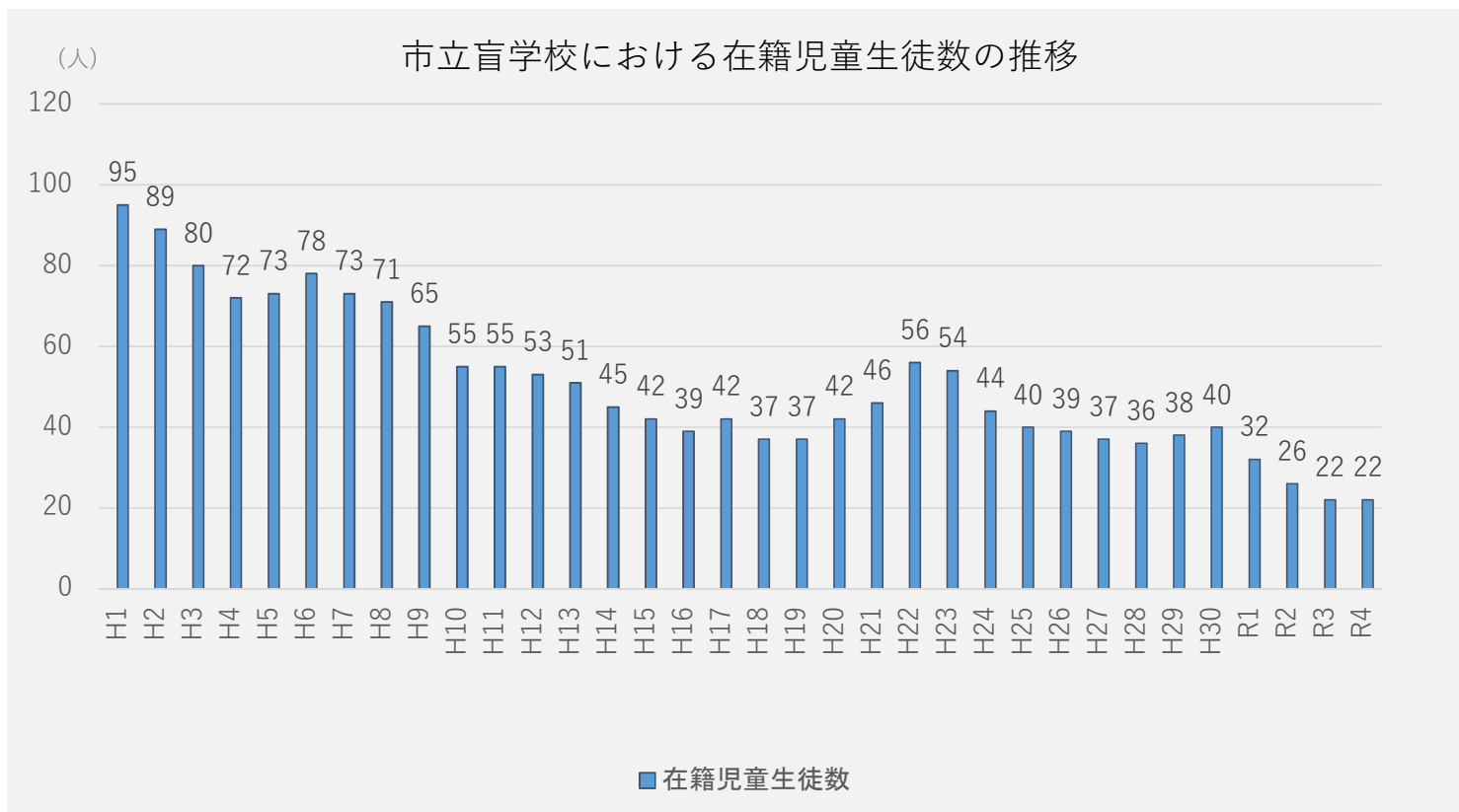
校舎面積(4,629㎡) 運動場面積(2,530㎡)

屋内プール、エレベーター等の設備有



市立盲学校における在籍児童生徒数の推移

- 国全体として少子化の傾向にあることに加え、医学の進歩による視覚障害児の発生率の低下。
- インクルーシブ教育の浸透が進み、地域の小中学校へ児童生徒が流れている傾向にある。

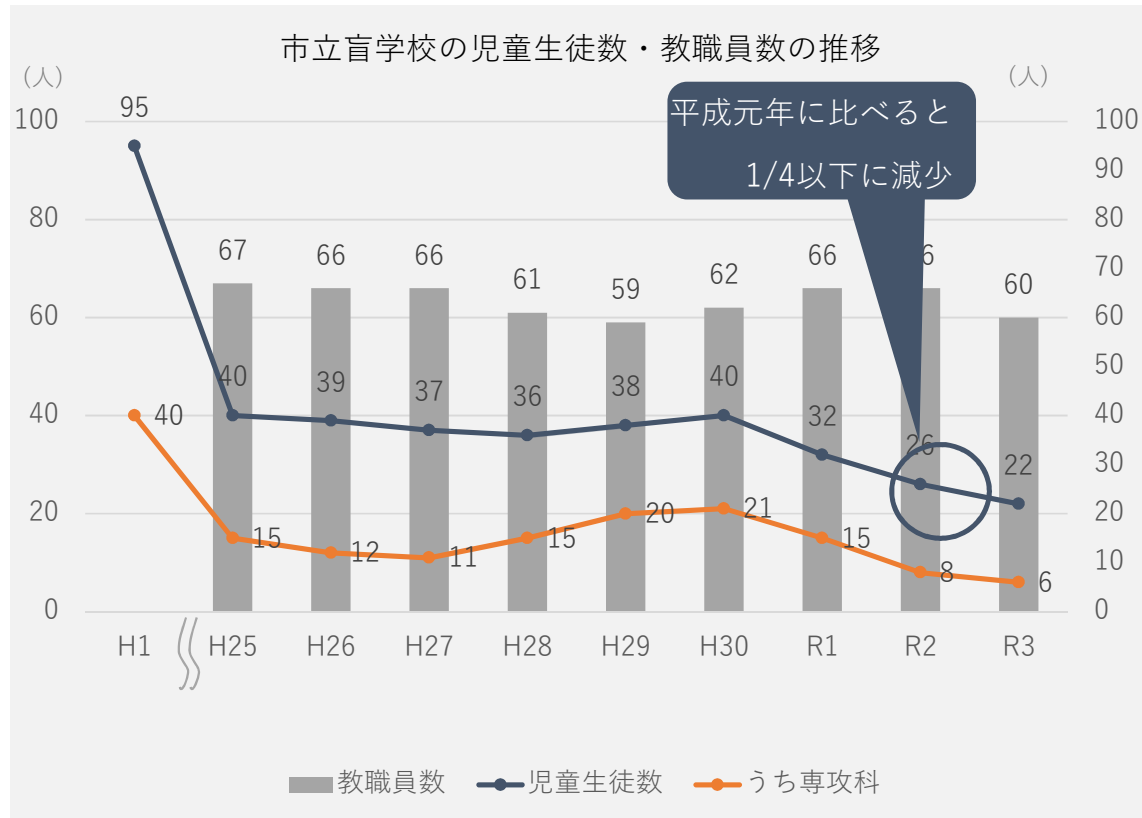


(参考) 拡大教科書の利用児童・生徒数
(小・中学校 特別支援学級含む)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	9名	11名	5名	6名	7名
中学校	7名	6名	7名	6名	3名
合計	16名	17名	12名	12名	10名

市立盲学校に通う児童生徒数の減少

- 市立盲学校に通う児童生徒数が減少傾向
- 高卒以上で「あん摩マッサージ指圧師」等の資格取得を目指す「専攻科」の人数も減少傾向

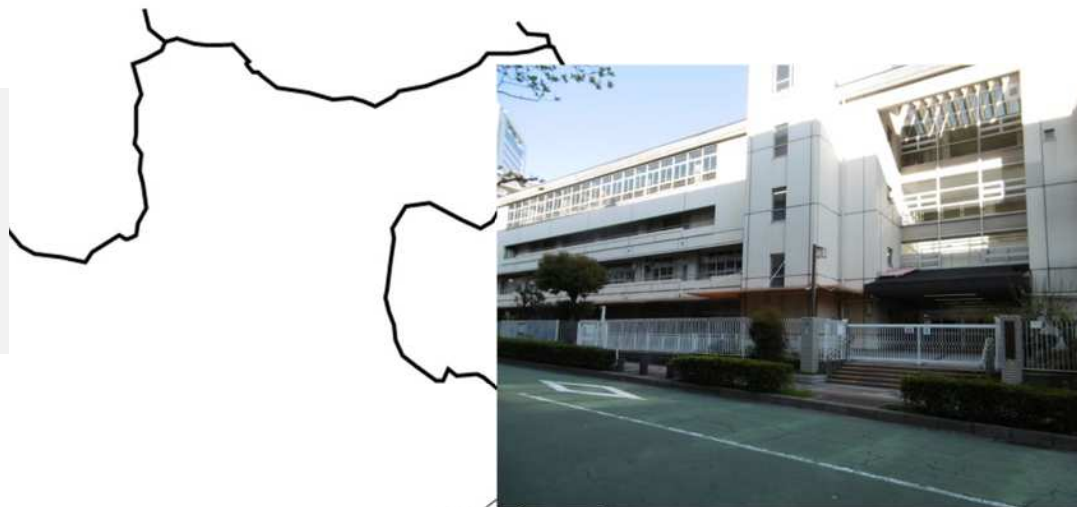


- ・ 児童生徒数の減少
 - ・ 建物老朽化（昭和63年現校舎完成、築33年）
- 上記の課題に対応する必要がある。

神戸市内の視覚障害部門のある特別支援学校

市内には視覚障害部門のある特別支援学校が2校

- ・市立盲学校
- ・県立視覚特別支援学校



市立盲学校（S14開校、S63現校舎完成）
（神戸市中央区東川崎町）
市内全域（視／幼・小・中・高(本科・専攻科)）



県立視覚特別支援学校（M38開校、S63本校舎完成）
（神戸市垂水区城が丘）
県内全域（視／幼・小・中・高（本科・専攻科））

○全国の視覚特別支援学校（併置校の現状）

盲複数の障害種に対応した学校：5校）

- ・東京都立久我山青光学園（視覚・知的）
- ・神奈川県立相模原中央支援学校（視覚・聴覚・肢体・知的）
- ・富山県立富山視覚総合支援学校（視覚・病弱（高普））
- ・山口県立下関南総合支援学校（視覚・聴覚・肢体・知的・病弱）
- ・福岡県立柳河特別支援学校（視覚・肢体・病弱）

県立特別支援学校における教育環境整備方針（抜粋）

3 障害種別ごとの本県の教育における現状と課題、取組の方向

障害種別	県立校数	在籍者数	現状	課題等	取組の方向
視覚	1校	横ばい	・全県の視覚障害教育を担う（センター的機能を含む） ・広域な通学区域、寄宿舎設置	・一人一人に応じた教育や地域支援のニーズにも対応できる教員の専門性の確保 ・校舎及び寄宿舎の老朽化	・短期的な見通しに加え、長期的な視点での人材育成及び人事交流 ・改修、改築を実施する際は老朽化解消の限定対応のみならず、複数障害種別校への再編等、抜本的な対応も視野に入れて検討
聴覚	5校	減少傾向	・小中学校の聴覚学級増加 ・全体的には減少傾向だが、重複障害のある児童生徒は増加傾向	【聴覚支援のあり方検討会意見への対応】 ・早期支援の充実のため、聴覚障害教育の中核となるセンター的機能の強化 ・適正な学習集団の確保 ・障害の重症・重複化、多様化に対応した指導ができる教職員の育成、研修の機会や場の確保	・聴覚特別支援学校の聴覚支援センター活用の充実 →保健医療福祉と連携したフリースタッフ支援体制 関係機関との連携を強化（外部人材） ◎むごがわ特別の整備 （阪神地域の聴覚障害教育の拠点校として整備） ◎豊岡聴覚と出石特別の統合を検討 （但馬地域の聴覚障害教育の拠点校として機能強化） ・短期的な見通しに加え、長期的な視点での人材育成及び人事交流
知的	22校	地域により増加	・一次計画、二次計画により整備推進 ・三次計画推計では、豊神、神戸地域で大幅増加、淡路地域は減少 ・特別教室の転用や仮設校舎整備等で普通教室を確保 教育活動に制限が生じている学校もある	・教職化が著しい阪神地域での整備推進 在籍者数増加に伴う専任教員の不足等 学校状況化への対応や教育環境の改善 ・教職化が進む東播磨地域での整備検討 ・地域の実情等を踏まえた対応や検討 障害児入所施設等の再編による、在籍者数の増減等	◎むごがわ特別の整備（再掲）（芦屋特別の状況化解消） ◎阪神北地域新設の整備（こやの里特別の状況化解消） ◎いなみ野及びはりまの対応の検討 （旭元市町と連携し、統廃各校の施設活用等を含め整備手法を検討） ◎出石特別と豊岡聴覚の統合を検討（再掲） （小～高等部までの知的障害教育の一貫した支援体制の充実等） ・障害児入所施設設備接収の対応 （在籍者数の増減ある学校は、今後の動向を注視し対応を検討） ・高等特別と上野ヶ原の効果的な施設活用の検討 （同一敷地内にあり、施設共用等教育充実のため効果的な活用方法を検討）
肢体	4校（加東併用）	横ばい	・重複障害等、多様な教育的ニーズに対応 肢体不自由と知的の重複障害児童生徒が教育的ニーズにより、居住地近隣の知的障害特別支援学校に在籍する例あり。 ・広域な通学区域 寄宿舎設置 （小中高：和田山、高：播磨）	・隣接医療機関の移転により、医療との連携が困難 ・のじぎく特別わかあゆ分教室はH26～在籍者0 今後も見込みなし ・校舎及び寄宿舎の老朽化	○播磨特別職業科を総合ビジネス科に学科改編（R4～）済 ・理学療法士、作業療法士等、専門家との連携を強化（外部人材の活用） ・知的障害特別支援学校在籍児童生徒も含め、高度な医療的ケアの対応 ・のじぎく特別わかあゆ分教室の閉室を検討 対象児童生徒は、のじぎく特別本校あるいは近隣校で就学受入れ ・改修、改築を実施する際は老朽化解消の限定対応のみならず、地域の実情等も踏まえ、複数障害種別校への再編等、抜本的な対応も視野に入れて検討
病弱	1校（岡内2）	減少傾向	・入院専門治療施設として、県内外からの入院患者へ教育を提供 ・本校病弱部門単一障害児童生徒減少傾向	・県立カトリック中央病院及び県立ひょうごこころの医療センターに入院する、小笠原、ひきこもり、聴覚障害等、思春期の心の問題に関するニーズのある児童生徒が増加傾向、教職員の専門性確保 ・医療機関との連携等による専門性の確保	○のじぎく特別に病弱部門（県立カトリック中央病院内）の設置を検討 （施設近隣校に病弱部門を設置することにより、専門性のある教職員を確保） ・上野ヶ原と高等特別との効果的な施設活用の検討（再掲）

障害種別 視覚

（現状）

- ・全県の視覚障害教育を担う（センター的機能を含む）

（課題等）

- ・一人一人に応じた教育や地域支援のニーズにも対応できる教員の専門性の確保

（取り組みの方向）

- ・短期的な見通しに加え、長期的な視点での人材育成及び人事交流
- ・改修、改築を実施する際は老朽化解消の限定対応のみならず、複数障害種別校への再編等、抜本的な対応も視野に入れて対応